

29

和漢脩身書

山内貴編纂

八

東京師範學校稻垣千穎先生閱正
竹溪山内貴先生編纂

和漢

身書

類脩身
屬九卷
冊四
函一
行五
級一

文學社發兌



明治十六年十月十三日納付山内貴氏

和漢修身書卷之八

稻垣千穎閱正
山内 貴編纂

東京師範學校

修身書 第八章

○具原篤信曰、人ハ天地ノ惠ヲ受ケテ
生スルノミナラス、身ヲ終ルマテ天地
ノ養ヲ受クルコト、猶子ノ父母ヨリ生
レテ後モ、父母ノ養ニ由リテ成長スル

和漢修身書卷之八

カ如シ、是ヲ以テ常ニ天地ニ事ヘテ、其
ノ大恩ヲ報センコトヲ務ムヘシ、是天
地ニ事フル道ナリ、

○安積信曰、天下ノ善モ亦多シ、其ノ要、
君臣父子夫婦長幼朋友ノ道ニ過キス、
能テ得テ失ハサルヲ、之ヲ善徳ト謂フ、
能ク行ヒテ戻ラサルヲ、之ヲ善行ト謂
フ、

○柴邦彦曰、心ニハ直ヲ視テ枉トシ、學
ヒテ正ヲ失フ者ハ、忠孝ヲ以テ矯偽ト
ス、忠孝ハ大節ナリ、是ニ於テ誤ラハ、何
クニ適クトシテカ謬ラサラシ、

○曾參曰、父母之ヲ生ス、子敢ヘテ殺サ
ス、父母之ヲ置ク、子敢ヘテ廢セス、父母
之ヲ全クス、子敢ヘテ闕カス、故ニ舟シ
テ游カス、道シテ徑セス、能ク支體ヲ全

クシテ以テ宗廟ヲ守ル、孝ト謂フヘシ、
 ○君子ハ敬セサルコトナシ、敬ハ身ヲ
 敬スルヲ大ナリトス、身ハ親ノ枝ナリ、
 敢ヘテ敬セサラシヤ、其ノ身ヲ敬セサレ
 ハ、是其ノ親ヲ傷ル、是本ヲ傷ルナリ、其
 ノ本ヲ傷レハ、枝之ニ從ヒテ亡フ、禮記
 ○父母没スト雖將ニ善ヲ爲ントセハ、
 父母ニ令名ヲ貽ランコトヲ思ヒテ、必

果ス將ニ不善ヲ爲ントセハ、父母ニ差
 辱ヲ貽ランコトヲ思ヒテ、必果サス_{上全}
 ○曾參曰、孝子ノ老ヲ養フハ、其ノ心ヲ
 樂マシメ、其ノ志ニ違ハス、其ノ耳目ヲ
 樂マシメ、其ノ寢所ヲ安ンシ、其ノ飲食
 ヲ以テコレヲ忠養ス、
 ○人タル者ハ、道理ヲ識リ、禮儀ヲ識ラ
 ンコトヲ要ス、父母ニ事ヘテ恭敬順從

シ先王ノ教ヘニ遵依スヘシ、自己ノ意
ニ任セテ怠慢スヘカラス、教子 齋規

○林友直曰、子弟タル者ハ第一ニ父兄
及ヒ長者ノ命ヲ能ク聽キテ、少シモ違
背セス、義理ト恥トヲ專ニシテ、每事勞
ヲ厭フヘカラス、

○貝原篤信曰、兄弟ハ同母ノ胎内ヨリ
出テ、同シ母ノ乳ヲ飲ミ、又同シ父ノ
兩腕ノ内ニ抱レシ者ナリ、然ルニ若シ
相親愛セスンハ、世上復何者ヲカ親愛
スヘキ者トスル、

○徳川家康曰、慈惠ハ譬ヘハ草木ノ根
ナリ、和順ハ譬ヘハ草木ノ花ナリ、人能
ク其ノ根ヲ養ヘハ、花モ亦從ツテ衰ヘス、
○保科正之曰、慈ヲ知リテ仁ヲ知ラサ
レハ、其ノ爲ル所盡ク是婦人ノ仁ナリ、

何ヲ以テカ道ヲ得ン、

○貝原篤信曰、不仁ニシテ吝嗇ナレハ、
多ク財ヲ有スト雖人ヲ救ヒ惠ムコト
ナシ、吝嗇ナラサル人モ、仁愛ニ心ヲ用
井サレハ、施スコトナクシテ、無益ノ事
ニ財ヲ費ス、

○仁ハ人ヲ愛スルヨリ大ナルハ無ク、
智ハ賢ヲ知ルヨリ大ナルハナシ、
孔子家語

○薄福ノ者ハ必刻薄ナリ、刻薄ナレハ
福更ニ薄シ、厚德ノ者ハ必寛厚ナリ、寛
厚ナレハ徳更ニ厚シ、
紳瑜

○徳修レトモ人ヲ動スニ足ラス、恩深
ケレトモ人ヲ結フニ足ラサルハ、皆誠
ノ未至ラサルナリ、然リト雖、天ヲ動シ
人ヲ結フニ心アルハ、便是誠ナラス、
蓄徳

録

○愛ヲ立ルニ親ヨリ始ムルハ民ニ睦
ヲ教フルナリ、敬ヲ立ツルニ長ヨリ始
ムルハ民ニ順ヲ教フルナリ、教フルニ
慈睦ヲ以テシテ、民親ヲ貴ヒ、教フルニ
敬長ヲ以テシテ、民命ヲ用井ルヲ貴フ、

禮記

○張念芝曰、敬以テ親ニ事フレハ親安
ンシ、敬以テ長ニ事フレハ長安ンシ、敬

以テ下ヲ御スレハ、左右婢僕ノ人安ン
シ、敬セサル所ナケレハ、安ンセサル所
ナシ、

○詞ヲ出シ氣ヲ吐クハ、和平ナルヘシ、
峻厲ナルヘカラス、和平ナレハ、則理明
カニシテ、聽ク者心ニ快シ、峻厲ナレハ、
則氣激シテ、聽ク者耳ニ逆フ、
畜德錄

○貝原篤信曰、其ノ子ノ性質善ク、父ノ

教へ正レト雖、放逸無頼ノ小人ニ交リテ、
之ト往來スレハ、必其ニ誘惑セラレテ、
惡ヲ爲ルニ至ル、况ンヤ其ノ子ノ性質、
善ナラサル者ヲヤ、

○室直清曰、今世ノ人ハ、一旦ノ怒又ハ
僅ノ慾ニヨリテ、平生ノ嗜好ヲ忘レ、或
ハ田宅ノ界ヲ争ヒ、或ハ金銀ノ債ノ爲
ニ、互ニ怒ヲ起シテ、遂ニ公事訴訟ニ及

ヒ、一郷ノ騷擾トナルニ至ル、歎セサル
ヘケンヤ、

○凡朋儕中ニアリテ、切ニ自滿ツルヲ
戒ム、惟虚シ、故ニ能ク受ク、滿テハ則容
ル、所ナシ、人我ニ告ケサレハ、則此ニ
止マルノミ、日ニ益スコト能ハサルナ

リ、
劉氏
人譜

○伊藤維楨曰、志ヲ立ルニハ、須ラク第

一等ノ人ト爲ランコトヲ期スヘシ終
夜寢子スレテ空レク往事ヲ追懷レ何
事モ爲ス事ナクシテ年ヲ經ハ殊ニ先
志ニ背クナリ、

○貝原篤信曰志ヲ立ルハ勇猛ナルヘ
シ怠レハ其ノ効ナレ又道ヲ求ムル志
ハ譬ヘハ饑エテ食ヲ求メ渴シテ水ヲ
求ムルカ如クニ切ナルヘシ悠々トシ

テ怠レハ志廢レテ立ツコトナレ

○大丈夫ハ正大ヲ以テ心ヲ立テ光明
ヲ以テ事ヲ行ヒ終ニ邪暗ノ小人ニ惑
サレテ其ノ守ル所ヲ易ヘサルモノナ

リ、讀書錄

○貝原篤信曰學者ハ先志ヲ立ルト眞
實ナルトヲ以テ本トス只道學ノ實ヲ
勤ムヘシ道學ノ名ヲ好ムヘカラス名

聞ノ爲ニ累サル、ハ鄙陋ナリ、凡天地
間ニ我カ身ヨリ親シキハナシ、學問ハ
唯身ノ爲ニスヘシ、名聞ノ爲ニスヘカ
ラス、

○又曰、學問ハ志ヲ立ツルヲ以テ本ト
ス、志トハ心ノ向フ所ナリ、道ヲ知リテ
之ヲ行ヒ、君子ニ至ラント欲シテ、常ニ
怠リナク、念々止マサルヲ、志ヲ立ツト

謂フ、志立サレハ、學フ所成就セス、古人
曰、志アル者ハ、其ノ事終ニ成ルト、

○尊傳法親王曰、吾今世ノ人ヲ見ルニ、
書ヲ讀ミテ藝トスル人ハアレトモ、未
己カ行トスル人ヲ見ス、斯ク輕薄ノ世
ヲ歎ク心思フ、天地モ照覽セヨト思フ
ナリ、

○張載曰、心大ナル時ハ、寬平ニシテ弘

ク遠シ、故ニ己ヲ處シ人ヲ待ツニ、往ク
トシテ遠カラサルコトナシ、心小ナル
時ハ、褊小急暴ニシテ固陋ナリ、處スル
所トシテ病タラサルコトナシ、

○佐藤坦曰、文ヲ作ルニハ、宜シク意ヲ
命シ言ヲ立ツルニ、一字モ苟シクモセ
サルヘシ、乃瑕ナシトス、千言立トコロ
ニ成ル、何ソ其ノ言ノ易キヤ、

○韓愈曰、業ハ勤ムルニ精シクテ、嬉ム
ニ荒シ、行ハ思フニ成リテ、隨フニ毀ル、
○書ヲ讀ムトモ、自家身心ノ上ニ體認
シテ工夫ヲ做サ、レハ天下古今ノ書
ヲ讀ミ盡スト雖、猶益ナキナリ、讀書錄

○正書ヲ讀ミ、正理ヲ明カニシ、正人ニ
親シシ、正心ヲ存シ、正事ヲ行ヘハ、斯ニ
正シカラサルコトナシ、續讀書錄

○早ク眠リ、早ク起キ、勤メテ家事ヲ理メ、飲食衣服ヲ節省シテ、毎歳其ノ餘リヲ儲蓄シ、以テ將來吉凶ノ豫備ヲスヘシ、人生必讀書

○貝原篤信曰、家ヲ保ツ道ハ、勤儉ノ二ニアリ、克ク勤儉ナレハ、財ヲ失ハスシテ、家ヲ保ツ、二ノ者並ヒ行ヒテ、一ヲモ缺クヘカラス、蓋勤儉ノ工夫ハ、唯忍ノ

一字ニアリ、勞ヲ忍ヒ、苦ヲ忍ヒテ、克ク勤メ行フニ在リ、

○三善清行曰、節儉ヲ崇ヒ、奢侈ヲ禁シ、澣濯ノ衣ヲ服シ、滋養ノ食ヲ嘗ム、此則古來ノ美ト稱スル所以ニシテ、明時ノ規模ト爲ル所ナリ、

○一切ノ事、俱ニ儉朴誠實ヲ要ス、浮華ヲ學フヘカラス、蓋浮華ハ一時ヲ光耀

スト雖、竟ニ實事ニ益ナシ、人ノ名ヲ敗
リ禍ヲ得ル者、總ヘテ奢侈ノ致ス所ニ由
ル、知世

○范純仁曰、惟儉以テ廉ヲ助クヘシ、惟
恕以テ德ヲ成スヘシ、

○王巖叟曰、凡用ヲ節スルト言フハ、偶
一事ヲ節シテ、便能ク濟ルコト有リト
謂フニ非ス、其ノ要當ニ每事節儉ヲ以

テ意ト爲スヘシ、則久キヲ積ミ日ヲ累
子テ、國用自饒カナリ、

○呂坤曰、恩寡キヲ薄ト曰ヒ、恩ヲ傷ル
ヲ刻ト曰フ、事ヲ盡スヲ切ト曰ヒ、事ニ
過ルヲ激ト曰フ、此ノ四者ハ、人ノ深ク
戒ムヘキ所ナリ、

○貝原篤信曰、我カ身ノ行ノ善惡ハ、人
ノ譽ルヲ喜ヒ、人ノ毀ルヲ恐ルヘカラ

ス唯道理ヲ以テ法トスヘシ其ノ行道ニ合ハ、世舉リテ之ヲ毀ルトモ恐ルニ足ラス其行道ニ背クトキハ世舉リテ譽ムトモ喜フニ足ラス

○人已ヲ譽メテ果シテ善アラハ但當ニ其ノ善ヲ持スヘシ自喜フ心アルヘカラス善ナクハ益修メテ可ナリ人已ヲ毀リテ果シテ惡アラハ即當ニ其ノ

惡ヲ去ル可シ聞クコトヲ惡ム意アル可カラス惡ナクハ益勉メテ可ナリ讀書錄

○藤原爲範曰言ヲ以テ人ヲ知ル人ハ多ク行ヲ以テ人ヲ知ル人ハ少シ行ニ依リテ人ヲ見レハ必違フコト莫ラン
○貝原篤信曰禍ハ慾ヲ肆ニスルヨリ大ナルハナク惡ハ人ヲ譏ルヨリ大ナルハナシ此ノ二ノ者ハ只義理ニ背ク

ノミナラス身ヲ亡ス道ナリ、心ニ銘シテ戒ムヘシ、

○怒火慾ノ正ニ騰沸スル處ニ當リテ、明々ニ知り得、又明々ニ犯ス、知ル者ハ是誰ソ、犯ス者ハ是誰ソ、此ノ處能ク猛然トシテ、念ノ邪魔ヲ輕ク轉スレハ、便眞ノ君子トナラン、鑛書

○林逋曰、人ノ情慾ヲ制スルハ、當ニ隄防ノ水ヲ制スルカ如クスヘシ、常ニ其ノ漏壞ノ易キヲ恐ル、若シ其ノ泛濫スルヲ顧ミサレハ、一度傾キテ復スヘカラス、

○藤原資親曰、慾心中ニ動クトキハ、諸惡生ス、無慾ナルトキハ、諸善生ス、人已ニ善ノ善タルコトヲハ知リテ、何ソ無慾ナラサルヤ、

○其ノ心厚キ者ハ其ノ福厚ク其ノ量
弘キ者ハ其ノ福弘シ日ニ計リテ足ラ
サルモ歳ニ計レハ餘リアリ畜德 録

○世間一處トシテ意ニ拂ルコトナキ
ハナク一日トシテ意ニ拂ル事ナキハ
ナシ唯度量寛弘ニシテ受容スル處ア
ルヘシ彼ノ器局褊淺ナル者ハ空シク
自懊恨スルノミナリ上全

○貝原篤信曰商ハ利ヲ輕ク取りテ多
ク貪ラス偽ナク人ヲ欺カサレハ人之
ヲ疑ハス頼ル所アリテ其ノ言ヲ信シ
其ノ賈物ヲ多ク買フ故ニ賈物廣ク賣
レ利ヲ得ル事多ク富ヲ得ルコトアリ
是良賈ナリ

○又曰身ニ私シテ我一人利ヲ得ント
スレハ争生シ反リテ我カ身ノ害トナ

ル、義ヲ行テ自來ル利ハ眞ノ利ニシテ、
我カ益トナル、貪リ求ムルハ眞ノ利ニ
アラス、必身ノ禍トナル、是利ヲ求ムル
ニアラス、害ヲ求ムルナリ、

○孟軻曰、或ハ心ヲ勞シ、或ハ力ヲ勞ス、
心ヲ勞スルモノハ人ヲ治メ、力ヲ勞ス
ルモノハ人ニ治メラル、人ニ治メラル
者ハ人ヲ食ヒ、人ヲ治ムルモノハ人

ニ食ハル、天下ノ通義ナリ、

○貝原篤信曰、我カ智一ヲ恃ミテ、人ノ
智ヲ用井サレハ、世間ノ萬事、我一人ニ
テ知リ難シ、知ラサルコト多キハ、小智
ト謂フヘシ、我一人ノ智ヲ用井スシテ、
廣ク人ニ問ヒ、其ノ善ヲ取リテ用井レ
ハ、衆人ノ智ヲ合セテ、大智トナルヘシ、
○陳繼儒曰、名利ノ人ヲ壞ルコトハ、三

利漢傳身書卷之八

東傳身書卷之八

夫

尺ノ兒童モ皆之ヲ知ル、但利ヲ好ム弊
ハ人ヲシテ復名ヲ顧ミサラシメ、名ヲ
好ムノ過クルモ、亦人ヲシテ復君父ヲ
顧ミサラシム、親ノ命ヲ妨ケテ以テ身
ヲ潔クシ、朝廷ヲ訕リテ以テ直ヲ賣ル
者アリ、是ヲモ忍フヘクハ、孰レヲカ忍
フヘカラサラシラン、

○輕言戲謔ハ、最事ヲ害ス、蓋言ヲ妄發

セサレハ、則言出テ、人之ヲ信ス、苟シク
モ輕言戲謔スレハ、後ニ誠實ノ言アリ
ト雖、人亦之ヲ信セス、畜德錄
○藤原兼綱曰、天下ノ善惡ヲ改メスレ
テ、徒ラニ無事ヲ好ム者ハ、仮令善者ト
雖、無用ノ人ナリ、况ンヤ、其ノ他ヲヤ、
○貝原篤信曰、食ハ以テ生ヲ養フ、飽食
スル者ハ、之ヲ以テ生ヲ傷ル、藥ハ以テ

人ヲ救フ、庸醫ハ之ヲ以テ人ヲ殺ス、學
ハ以テ性ヲ治ム、小人ハ之ヲ以テ性ヲ
傷ル、皆之ヲ用井ルニ其ノ道ヲ失ヘハ
ナリ、

○王肅曰、凡主人ト爲リテ、客ニ強テ多
ク飲マシメ、泥酔ニ至ラ使ルコト勿レ、
若シ人ニ強ヒラルレハ、席ヲ退キ、父兄
ノ誠ヲ稱シテ、以テ之ヲ辭セヨ、管仲ハ

君ニ辭ス、况ンヤ、人ニ於テヲヤ、

○紀德民曰、道ヲ知ラスシテ心ヲ師ト
シ、自信スル者ハ、譬ハ方圓ノ規矩ニ因
ラサルカ如シ、豈毫釐ノ差ナキヲ保ス
ヘケンヤ、

○程頤曰、道ヲ知ラサル者ハ、醉人ノ如
シ、其ノ醉ニ方リテハ、至ラサル所ナク、
其ノ醒ルニ及ヒテハ、愧恥セサル所ナ

シ未道ヲ知ラサレハ、自以テ缺ル所ナ
シトシ、既ニ學フニ及ヒテ、駭キ且懼
ル、

○貝原篤信曰、學問ヲ爲ル者ハ、君子ト
爲ランコトヲ志スヘシ、若シ之ヲ勤メ
ス、才學ノミニ心ヲ用井テ、自矜リ人ヲ
慢ルハ、其ノ心術書ヲ讀マサル時ヨリ
モ壞ル、コレ小人ヲ學ヒシ人ナリ、

○陳瓘曰、幼學ノ士ハ、先人品ノ上下ヲ
分別センコトヲ要ス、何者カ是聖賢ノ
爲ル所ノ事ソ、何者カ是下愚ノ爲ル所
ノ事ソ、善ニ向ヒ惡ニ背キ、彼ヲ去リ此
ヲ取ル、此幼學ノ當ニ先ニスヘキ所ナ
リ、

○書ヲ讀ムノ要ハ、多キヲ貪ルニ在ラ
ス、只章句ヲ熟讀スヘシ、精思スルコト

久シケレハ義理自然ニ貫通ス願體集

○三浦晋曰、學問ハ譬ハ臭アル菜ノ如シ、其ノ臭氣ヲ去ラサレハ人必之ヲ惡ム、少シク學ヘハ少シク臭アリ、大ニ學ヘハ大ニ臭アリ、且學問ハ之ヲ胸後ニ納メテ、鼻前ニ出スヘカラス、

○貝原篤信曰、學ハ思フニ原ツクト雖、間思雜念ハ甚心術ニ害アリ、學者胸中

泰然トシテ事ナクシテ、有用ノ思慮應接ヲ待ツヘシ、

○又曰、輕ト惰トハ、學ヲ爲ルニ大病ナリ、輕キモノハ未得サルヲ以テ已ニ得タリトシ、惰ル者ハ悠緩ニシテ進ムコト能ハス、

○大抵書ヲ觀ルニハ、先熟讀シテ、其ノ言皆吾カロヨリ出ツルカ如クナラシ

人、繼クニ精ク思ヒテ、其ノ意皆吾カ心
ヨリ出ツルカ如クナラシムヘシ、然シ
テ後、以テ得ルコトアルヘシ、畜德 錄
○貝原篤信曰、學問ノ道ハ、極メテ廣大
高妙ニシテ深奥ナリト雖、孝悌忠信ノ
日用常行ニアリ、故ニ愚人モ學ヒ易ク
知り易ク、又行ヒ易シ、高遠ニシテ性異
ナルハ、此ノ道ニアラサルナリ、

○學問ハ師ニ從フヲ要スト雖、亦朋友
ニ依リテ相成ス處甚多シ、師ハ只是其
ノ大端ヲ開クノミナリ、又體貌嚴重ナ
リ、從容間暇ノ際ニ於テ、委曲論難スル
カ如キハ、朋友ヲ待チテ更ニ發明シ得
テ仔細ナリ、畜德 錄
○保科正之曰、人書ヲ讀ムニ當リテ、適
來客アレハ、其ノ口ハ客ト言ヘトモ、其

ノ心ハ却テ書ニ在リ、是不敬ノ大ナル
モノナリ、客ニ接スルニ當テハ、專ラ客
ニ接スルヲ可トス、此ノ際何ソ書ヲ思
フヲ須ヒン、卽是學ナリ、

○藤原公行曰、人苟レクモ惡人ト知ラ
ハ、交リテ俱ニ言フヘカラス、物自然ニ
浸染スルコトハ、是天地ノ常ナリ、善人
モ亦此ノ如シ、古人ノ言ニ曰、花中ノ鶯

哉、
ハ、其ノ聲花ナラサレ、凡香レト、故アル

○藤原元長曰、己人ヲ愛スレハ、人モ亦
己ヲ愛ス、己人ヲ敬スレハ、人モ亦己ヲ
敬スト、古人之ヲ語レトモ、道ニ勸ムル
モノ鮮シ、此ノ如キカ道ノ至リテ難キ
コトハ、

和漢修身書卷之八終

明治十五年十一月十六日版權免許
明治十六年一月 出版

編纂人

福井縣士族

山内

貴

東京京橋區采高千一番地

滋賀縣士族

岸田貢次郎

東京本町四丁目十六番地

出版人

和漢脩身書

山内貴編纂

九